

## 知財活用アイデア大会 中小企業は第2創業に学生の知恵を

大手企業などが保有する開放特許の活用を中小・ベンチャー企業に呼びかけるため、産学官金の支援機関が連携し大学生にアイデアを募る「知財活用アイデア全国大会2016」が10日、東京都港区の富士通汐留本社で開催される。各地区の予選会を勝ち抜いた10大学13チームが、卓越した製産力を持つ中小企業に対し商品化につながるアイデアを提案する。主催する西武信用金庫の落合寛司理事長に狙いなどを聞いた。



おちあい・かんじ  
亜細亜大経済学部卒。  
1973年西武信用金庫入庫。  
2002年常勤理事、05年専務理事を経て、10年理事長。  
66歳。神奈川県出身。

前回大会で最優秀賞と優秀賞に輝いた学生チームと審査委員＝2015年11月28日、東京・半蔵門



——全国大会を主催する理由は

「中小企業は今、第2創業期を迎えている。現状のビジネスの延長線上でも、その関連でも、まったく違うものでも構わないが、時代が求めるビジネスモデルに変える必要がある。しかし今の社長、経営陣では難しい。大学生など若い人の新しい発想がビジネスモデルを変えるきっかけになる。こうした思いから主催している」

「そこで大手企業は保有する知財のうち使われていない特許などを開放し中小企業に使ってもらう。その使い方のアイデアを既成概念に邪魔されない学

生、中でも文系に出してもらおう。中小企業は活用できるといったアイデアを、磨いてきた独自技術と組み合わせると新商品を開発、第2創業につなげてほしい」

——中小企業が置かれている現状は

「日本経済が成長から円熟、衰退に移ろうとしている。この変革の時代に対応できない企業

は退場を余儀なくされ、成功すれば成長を続けられる。『小』が『大』に勝つ絶好の機会だが中小企業は変化に対応できず廃業・休業に追い込まれている。新しいビジネスが求められているわけで、第2創業期を意識して取り組むべきだ」

——学生が提案するアイデアをどう評価する

「今回が3回目だが、毎回成

### 西武信用金庫理事長 落合 寛司氏

長している。地元の金融機関や自治体など支援機関のサポートもあって、例えばマーケットリサーチも競合商品・サービスや価格などをしっかり調べてプレゼンテーションに臨んでいる。すばらしい発表をするので、表彰も今は優秀賞だけだが、アイデアを商品として実現しやすい現実賞、プラン賞など部門賞を設けたらいいかもしれない」

——課題も見えてきたのでは  
「中小企業が学生のアイデアを事業化するまでの時間がかかりすぎる。スピードアップに向けた態勢づくりが求められる。このため参加する中小企業を増やしたり、ファンドを活用したりしてフォローアップしていきたい。中小企業も自ら情報を収集していくべきだ。学生ともっと緊密にコミュニケーションをとってほしい」

「また、単なるアイデアコンテストになるとビジネス化が遠くなる。学生のアイデアを実現させるのが重要で、中小企業も使えそうなアイデアを見つけたら、従業員や施設を貸して一緒に商品化を進めたり、学生をリ

ーダーとして採用したらいいい。中小企業は第2創業のきっかけになるとの自覚を持つべきだ。これまでにノウハウを貯めたのでアイデアを実現させるためのスキームづくりに動く。来年はバージョンアップする」

——学生には起業家の道を開くのでは

「支援機関と一緒に事業化のアイデアを磨いていくので、その過程でビジネスをする上で必要なことも学ぶ。中小企業へのアイデア移転の一方で、自ら起業して大学発ベンチャーを目指してもいい。若い時の失敗や痛みは将来の糧となり必ず役立つ。企業側も起業意欲の高い学生を採用したらいいい」

#### ■会社概要

▷本店＝東京都中野区中野2-29-10

▷預金残高＝1兆7430億円

▷貸出金残高＝1兆3373億円

▷設立＝1969年

▷従業員数＝1192人

▷営業地域＝東京都・埼玉

県・神奈川県の一部